

「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例（小学校）

【吉川市教育委員会】

学習指導 要領の内容		問題番号	通番	評価の観点				記述式	県 正答率	本校 正答率
				1	2	3	4			
A	3年(5)イ	1	(1)	1			○	☆	94.8	100.0
A	3年(5)イ		(2)	2			○	☆	82.8	100.0
A	4年(5)ウ		(3)	3			○	☆	67.5	83.8
A	4年(5)ウ		(4)	4			○	☆	74.7	70.3
A	4年(1)ア	2		5			○	☆	92.4	94.6
A	4年(1)ア	3	(1)	6			○	☆	72.1	89.2
A	3年(5)ア		(2)	7			○	☆	91.7	100.0
A	3年(5)ア		(3)	8			○	☆	89.6	94.6
A	3年(6)イ		(4)	9			○	☆	63.1	78.4
A	4年(2)イ	4		10			○ ○	☆	71.1	70.3
A	4年(2)ウ	5		11		○	○	☆	67.7	91.9
A	4年(3)エ	6		12			○	☆	70.0	94.6
B	4年(2)イ	7		13			○		95.1	97.3
B	4年(1)イ	8		14		○	○	☆	71.4	97.3
B	4年(1)ア	9		15	○		○		28.8	8.1
C	4年(1)ア	10	(1)	16			○		55.5	67.6
C	4年(1)ア		(2)	17			○	○		74.1
C	4年(1)イ	11	(1)	18			○		43.2	64.9
C	4年(1)イ		(2)	19			○			36.0
C	4年(1)イ	12		20	○		○	☆	59.1	62.2
C	4年(2)イ	13		21		○	○		77.7	75.7
D	4年(4)イ	14		22		○	○		77.9	83.8
D	4年(4)ア	15	(1)	23			○	☆	76.0	86.5
D	4年(4)ア		(2)	24			○			65.5
D	4年(2)イ	16		25		○			55.5	78.4
D	4年(2)ア	17		26	○	○		☆	66.6	86.5
D	4年(1)ア	18	(1)	27	○	○		☆	65.5	75.7
D	4年(1)ア		(2)	28		○		☆	38.8	75.7

○分析

本校の今回の学習状況調査の結果は、どの教科も県の平均を超え、おおむね学習理解度は高い傾向にあることが分かった。（上記は算数の分析結果）

しかし、今後の指導に生かさなければならぬ問題も明らかになった。

### 【国語】

- ・ 県の平均正答率を上回ったものは、22問中20問であった。
- ・ 設問1－(2)，(3) (聞き取り問題)，2－(1)，(2)，3－(2) (読みとり問題) 5－(1)，(2) (熟語)，7－(1)，(2)，8－(1)，(2) (漢字の読み書き) では、正答率が90%を超えることができた。
- ・ 正答率が低かったのは、設問9，10であり、70%台であった。この原因は、時間内に最後の問題まで到達できない児童がいたためである。今後は、時間内に問題を読みとる力をつけられるよう、たくさんの問題に慣れさせ、音読練習により多く取り組む等、配慮していきたい。また、多くの本に触れさせるようにしていきたい。

### 【社会】

- ・ 県の平均正答率を上回ったものは、20問中17問であった。
- ・ 特に正答率の低かったものは、設問3－(1) 資料の活用能力であった。また、設問5－(1) 3，4年での学習の昔の道具の活用(七輪の使い方)は50%台の正答率であった。原因として、実際の昔の道具に触れたり、地域の方から聞いたりといった体験的な学習がやや不足していたことがあげられる。設問6－(5) 都道府県の位置については、全員が都道府県を暗記して唱えられるが、白地図上での位置確認が曖昧なままの児童もいたことで正答率が50%台にとどまった。今後は、地域との連携を密にし、地域ボランティアを活用したり、定期的に都道府県の名前や位置を確認したりする継続的な学習を取り入れていきたい。

### 【算数】

- ・ 県の平均正答率を上回ったものは、28問中23問であった。
- ・ 特に正答率の低かったものは、設問1－(4) わり算に関する学習であった。その中でも小数のわり算に苦手意識を持っている児童が多い。また、設問4の概数の処理も苦手である。最も低かったのは、設問9の面積の単位である。実際の体験的な活動(学習)が年間指導計画の時数だけでは定着しなかった。今後は児童の実態を考慮し、ミニテスト等で定着度を確認しながら学習を進めていきたい。また、計算に関する問題では、計算方法は理解しているが、計算の途中で間違いに気付かないまま先に進んでしまう傾向があるため、必ず、振り返って確かめる(検算)ようにさせていきたい。また、本校の児童は、図形に関する学習が苦手である傾向があるため、これからの学習指導では、大型テレビの活用等に加え、学習形態の工夫(少人数指導、TT等)をしていきたい。

### 【理科】

- ・ 県の平均正答率を上回ったものは、21問中15問であった。正答率の低かったものは、設問4(温度のはかり方)，設問6－(1)(太陽の方位(影のつき方))，設問14(熱の伝導)等であった。この3つの設問に対する定着が低かったことは、どの学習もグループでの実験・観察で学習を進めたことが原因であると考えられ、主体的に参加することができなかった児童の正答率が低かった。今後は児童の実態を考慮し、ミニテスト等で定着度を確認しながら学習を進めていきたい。